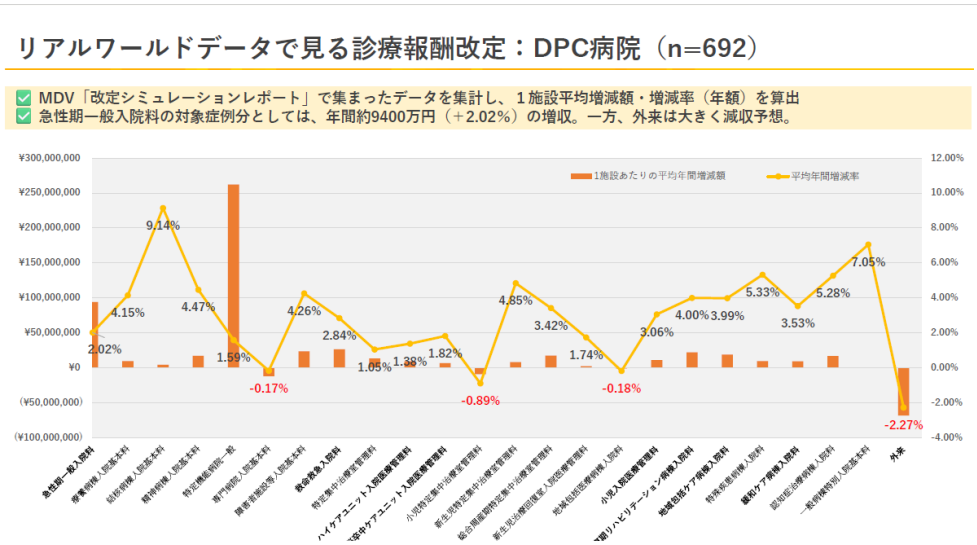
PRESSRELEASE
2026年7月21日
メディカル・データ・ビジョン株式会社

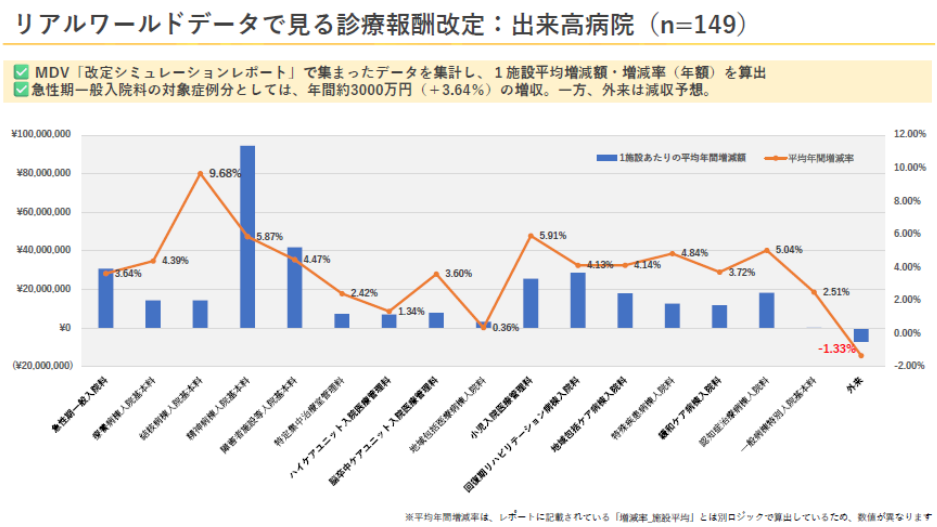
26年度改定シミュレーション、外来マイナスで厳しい状況続く
特定機能病院一般や救命救急入院料などが増加

メディカル・データ・ビジョン株式会社（東京都千代田区、以下「MDV」）は2026年度診療報酬改定（＋3.09%）を受けた病院経営の収入額を前年度実績を基にシミュレーションした結果、一施設当たり増収額が入院で年額9,400万円増（急性期一般入院料、前年比＋2.02%）となる一方、外来が同6,800万円減（前年比－2.27%）になる見通しで、引き続き厳しい経営環境が続くことがわかりました。

MDVの病院経営支援システムを導入しているDPC（入院医療費に包括評価方式を採用している）病院692から集計した2025年度の診療データをベースに、診療報酬改定年度（2026年度）病院収入のシミュレーションをしました（以下、上段グラフ）。その結果、入院について金額が大きいものでは、特定機能病院一般（2億6,200万円増、＋1.59%）、救命救急入院料（2,600万円増、＋2.84%）、回復期リハビリテーション病棟入院料（2,200万円増、＋4.00%）などとなりました。こうした半面、外来の落ち込みは、主に薬価引き下げによる影響が出ています。そこで仕入れ価格の調整など、病院経営では、よりコスト管理の重要性が高まっています。

また、出来高病院（以下、下段グラフ）でも同様の傾向が浮き彫りになりました。





※平均年間増減率は、レポートに記載されている「増減率_施設平均」とは別ロジックで算出しているため、数値が異なります

【改定シミュレーション】
＝DPC病院（692病院）＝

一施設当たり増減額
急性期一般入院料
年額9,400万円
（＋2.02%）

外来
年額６,800万円
（－2.27%）

＝出来高病院（149病院）＝

一施設当たり増減額
急性期一般入院料
年額3,000万円
（＋3.64%）
外来
年額　700万円
（－1.33%）

＜本件に関するお問い合せ先＞
メディカル・データ・ビジョン株式会社：広報室　君塚、赤羽、汲田
MAIL:　pr@mdv.co.jp　電話：03-5283-6911